

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2023年1月12日〔当初、無期限〕まで(2002年1月18日設定)	
運用方針	マザーファンドを通じて、高格付けの米ドル建ての公社債に分散投資を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。マザーファンドの運用は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに委託します。	
主要運用対象	ベビーフンド	USボンドマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	米ドル建ての公社債を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の利子等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、分配金額は、経費等を控除後の利子等収益等を中心に、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

三菱UFJ
米国債券インカムオープン

愛称：夢咲月



第124期（決算日：2022年9月8日）
第125期（決算日：2022年11月8日）
第126期（決算日：2023年1月10日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、お手持ちの「三菱UFJ 米国債券インカムオープン」は、去る1月10日に第126期の決算を行いましたので、法令に基づいて第124期～第126期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先	
お客さま専用フリーダイヤル	0120-151034 (受付時間：営業日の9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。	

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近15期の運用実績

決 算 期	基 (分配落)	準 価 額			債 組 入 比	券 先 物 比	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落 中 率			
	円			円	%	%	百万円
112期(2020年9月8日)	6,745			50	△1.3	93.1	2,431
113期(2020年11月9日)	6,497			50	△2.9	93.4	2,310
114期(2021年1月8日)	6,442			50	△0.1	93.2	2,185
115期(2021年3月8日)	6,520			50	2.0	93.3	2,157
116期(2021年5月10日)	6,518			50	0.7	92.9	2,097
117期(2021年7月8日)	6,680			30	2.9	94.4	2,113
118期(2021年9月8日)	6,623			30	△0.4	93.8	2,045
119期(2021年11月8日)	6,781			30	2.8	93.4	2,036
120期(2022年1月11日)	6,707			30	△0.6	94.0	1,943
121期(2022年3月8日)	6,579			30	△1.5	93.6	1,833
122期(2022年5月9日)	6,910			30	5.5	△4.7	1,855
123期(2022年7月8日)	7,180			30	4.3	△1.9	1,884
124期(2022年9月8日)	7,498			30	4.8	△1.3	1,942
125期(2022年11月8日)	7,147			30	△4.3	93.5	1,747
126期(2023年1月10日)	6,815			0	△4.6	—	1,522

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決 算 期	年 月 日	基 準	価 額	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
			騰 落 率		
第124期	(期 首) 2022年7月8日	円 7,180	% —	% 94.2	% △1.9
	7月末	7,238	0.8	94.2	△2.8
	8月末	7,290	1.5	94.0	△1.2
	(期 末) 2022年9月8日	7,528	4.8	94.2	△1.3
第125期	(期 首) 2022年9月8日	7,498	—	94.2	△1.3
	9月末	7,288	△2.8	94.4	△3.2
	10月末	7,347	△2.0	94.3	△5.1
	(期 末) 2022年11月8日	7,177	△4.3	93.5	△7.8
第126期	(期 首) 2022年11月8日	7,147	—	93.5	△7.8
	11月末	7,007	△2.0	93.8	△5.1
	12月末	6,804	△4.8	—	—
	(期 末) 2023年1月10日	6,815	△4.6	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせるので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第124期～第126期：2022年7月9日～2023年1月10日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第124期首 7,180円

第126期末 6,815円

既払分配金 60円

騰 落 率 -4.3%

(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ4.3%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

> 基準価額の主な変動要因**上昇要因**

債券利子収入を享受したこと等が基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）による積極的な金融引き締めにより米国の長期金利が上昇したことや、米ドルが対円で下落したこと等が基準価額の下落要因となりました。

第124期～第126期：2022年7月9日～2023年1月10日

投資環境について

▶ 債券市況

米国の長期金利は上昇しました。

期間の初めから2022年7月末にかけては各国中銀による積極的な金融引き締め姿勢が景気減速につながるとの懸念などから金利は低下しましたが、その後はインフレ高止まりの状態が長引くとの見方から金利は上昇基調で推移しました。10月の米消費者物価指数（ＣＰＩ）が市場予想を下回り低下したことなどで、インフレのピークアウトが意識され一時金利が低下する局面もあったものの、日銀の金融緩和政策の修正や欧米主要中銀の積極的な利上げ姿勢などを受けて、期間を通じてみると、米国の長期金利は上昇しました。

▶ 為替市況

米ドルは対円で下落しました。

期間の初めから2022年7月末にかけて、米景気減速懸念を受けて利上げ観測が後退したことなどを背景に、日米金利差縮小を見込んだ円高・米ドル安が進行しましたが、その後、8月上旬から10月中旬にかけては、大幅な利上げを続けるＦＲＢと、大規模な金融緩和政策を維持する日銀との間で金融政策の方向性の違いが意識され、円安・米ドル高が急速に進みました。10月以降はＣＰＩの結果などを受けて、ＦＲＢの利上げペース減速観測から米ドルへの下落圧力が強まったことや、日銀による金融緩和政策の修正を受けて円が米ドルに対して買われる展開となり、期間を通じてみると、米ドルは対円で下落しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱ＵＦＪ 米国債券インカムオープン

ＵＳボンドマザーファンド受益証券への投資を通じて、米ドル建ての公社債を高位に組み入れた運用を行いました。

▶ ＵＳボンドマザーファンド

ファンドのデュレーション（平均回収期間や金利感応度）については、抑制的からほぼ中立的な投資スタンスで臨み、市況に応じて機動的に対応しました。債券種別（セクター）配分については、市場対比で国債や住宅ローン債権を担保

としたモーゲージ証券（ＲＭＢＳ）を消極的なスタンスとしました。また、市場対比で事業債はファンダメンタルズの面から魅力的な投資対象であり、緩和的な金融環境が継続する中、相対的に利回りが高い事業債には引き続き根強い需要が

あるとの考えから、積極的な投資スタンスとしました。

なお、2022年12月14日以降は、繰上償還に向けて組入資産の売却を行い、資金化をはかりました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第124期 2022年7月9日～ 2022年9月8日	第125期 2022年9月9日～ 2022年11月8日	第126期 2022年11月9日～ 2023年1月10日
当期分配金（対基準価額比率）	30 (0.399%)	30 (0.418%)	－ (－%)
当期の収益	30	30	－
当期の収益以外	－	－	－
翌期繰越分配対象額	515	517	540

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ **三菱ＵＦＪ 米国債券インカムオープン**
 ＵＳボンドマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

▶ **ＵＳボンドマザーファンド**
 繰上償還に向け、安定運用とする方針です。

2022年7月9日～2023年1月10日

1 万口当たりの費用明細

項目	第124期～第126期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	42	0.589	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(20)	(0.280)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(20)	(0.280)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.028)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.004	(b) 売買委託手数料 = 作成期中の売買委託手数料 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
（先物・オプション）	(0)	(0.004)	
(c) その他費用	3	0.036	(c) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.034)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	45	0.629	

作成期中の平均基準価額は、7,171円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

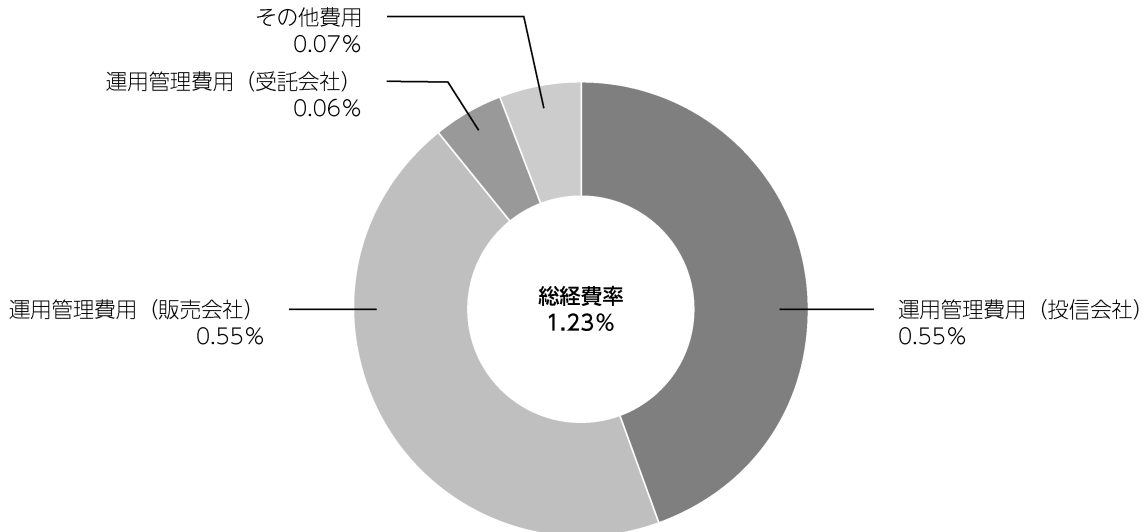
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.23%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年7月9日～2023年1月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	第124期～第126期			
		設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
US ボンドマザーファンド		—	—	137,398	302,000

○利害関係人との取引状況等

(2022年7月9日～2023年1月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ 米国債券インカムオープン>

該当事項はございません。

<US ボンドマザーファンド>

区 分	第124期～第126期					
	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況 B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況 D	$\frac{D}{C}$	
為替直物取引	百万円 —	百万円 —	% —	百万円 1,813	百万円 1,420	% 78.3

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年1月10日現在)

親投資信託残高

銘	柄	第123期末	第126期末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
US ボンドマザーファンド		856,323	718,924	1,515,708

○投資信託財産の構成

(2023年1月10日現在)

項 目	第126期末	
	評 価 額	比 率
ＵＳボンドマザーファンド	千円 1,515,708	% 99.3
コール・ローン等、その他	10,293	0.7
投資信託財産総額	1,526,001	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第124期末	第125期末	第126期末
	2022年9月8日現在	2022年11月8日現在	2023年1月10日現在
	円	円	円
(A) 資産	1,953,734,635	1,760,524,588	1,526,001,700
コール・ローン等	20,697,203	21,499,479	10,292,701
ＵＳボンドマザーファンド(評価額)	1,933,037,432	1,739,025,109	1,515,708,999
(B) 負債	11,546,986	12,744,514	3,274,384
未払収益分配金	7,770,876	7,336,305	—
未払解約金	52,965	1,796,546	47,543
未払信託報酬	3,709,362	3,598,276	3,214,913
未払利息	25	45	6
その他未払費用	13,758	13,342	11,922
(C) 純資産総額(A－B)	1,942,187,649	1,747,780,074	1,522,727,316
元本	2,590,292,204	2,445,435,284	2,234,433,078
次期繰越損益金	△ 648,104,555	△ 697,655,210	△ 711,705,762
(D) 受益権総口数	2,590,292,204口	2,445,435,284口	2,234,433,078口
1万口当たり基準価額(C／D)	7,498円	7,147円	6,815円

○損益の状況

項 目	第124期	第125期	第126期
	2022年 7 月 9 日～ 2022年 9 月 8 日	2022年 9 月 9 日～ 2022年11月 8 日	2022年11月 9 日～ 2023年 1 月10日
	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 356	△ 814	△ 1,325
受取利息	—	1	25
支払利息	△ 356	△ 815	△ 1,350
(B) 有価証券売買損益	93,684,843	△ 74,950,758	△ 71,321,735
売買益	94,148,727	2,655,946	3,002,239
売買損	△ 463,884	△ 77,606,704	△ 74,323,974
(C) 信託報酬等	△ 3,723,120	△ 3,611,618	△ 3,226,835
(D) 当期損益金 (A + B + C)	89,961,367	△ 78,563,190	△ 74,549,895
(E) 前期繰越損益金	△288,418,386	△193,420,048	△252,211,227
(F) 追加信託差損益金	△441,876,660	△418,335,667	△384,944,640
(配当等相当額)	(104,001,538)	(98,347,921)	(90,141,090)
(売買損益相当額)	(△545,878,198)	(△516,683,588)	(△475,085,730)
(G) 計 (D + E + F)	△640,333,679	△690,318,905	△711,705,762
(H) 収益分配金	△ 7,770,876	△ 7,336,305	0
次期繰越損益金 (G + H)	△648,104,555	△697,655,210	△711,705,762
追加信託差損益金	△441,876,660	△418,335,667	△384,944,640
(配当等相当額)	(104,028,361)	(98,371,089)	(90,178,349)
(売買損益相当額)	(△545,905,021)	(△516,706,756)	(△475,122,989)
分配準備積立金	29,414,707	28,070,248	30,669,822
繰越損益金	△235,642,602	△307,389,791	△357,430,944

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

①作成期首（前作成期末）元本額 2,624,730,325円

作成期中追加設定元本額 55,191,465円

作成期中一部解約元本額 445,488,712円

また、1口当たり純資産額は、作成期末0.6815円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は711,705,762円です。

③分配金の計算過程

項 目	2022年 7 月 9 日～ 2022年 9 月 8 日	2022年 9 月 9 日～ 2022年11月 8 日	2022年11月 9 日～ 2023年 1 月10日
費用控除後の配当等収益額	10,421,235円	7,457,368円	4,832,982円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円	－円	－円
収益調整金額	104,028,361円	98,371,089円	90,178,349円
分配準備積立金額	26,764,348円	27,949,185円	25,836,840円
当ファンドの分配対象収益額	141,213,944円	133,777,642円	120,848,171円
1万口当たり収益分配対象額	545円	547円	540円
1万口当たり分配金額	30円	30円	－円
収益分配金金額	7,770,876円	7,336,305円	－円

④「ＵＳボンドマザーファンド」の信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託財産に属する同親投資信託の信託財産の純資産総額に対し、次に定める率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しております。

信託財産の純資産総額

150億円未満の部分 年10,000分の30

150億円以上300億円未満の部分 年10,000分の25

300億円以上600億円未満の部分 年10,000分の20

600億円以上の部分 年10,000分の15

○分配金のお知らせ

	第124期	第125期	第126期
1 万口当たり分配金（税込み）	30円	30円	0円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。
- ・分配時において、外国税控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

*三菱ＵＦＪ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

USボンドマザーファンド

《第42期》決算日2023年1月10日

[計算期間：2022年7月9日～2023年1月10日]

「USボンドマザーファンド」は、1月10日に第42期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第42期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	米ドル建ての公社債を主要投資対象とし、信託財産の成長をめざして運用を行います。米ドル建ての国債、政府機関債、社債、アセットバック証券（ABS）、モーゲージ証券（MBS）等に分散投資を行います。投資する公社債はAー格以上（アセットバック証券（ABS）およびモーゲージ証券（MBS）についてはAAー格以上）の格付を取得しているものに限り、デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。公社債の実質投資比率は、信託財産の純資産総額を超える場合があります。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。運用指図に関する権限は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに委託します。
主 要 運 用 対 象	米ドル建ての公社債を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落 中 率			
	円	%	%	%	百万円
38期(2021年1月8日)	18,457	△3.8	93.9	5.0	2,170
39期(2021年7月8日)	19,636	6.4	94.8	4.6	2,105
40期(2022年1月11日)	20,094	2.3	94.5	2.5	1,933
41期(2022年7月8日)	21,910	9.0	94.6	△1.9	1,876
42期(2023年1月10日)	21,083	△3.8	—	—	1,515

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準 価 額	騰 落 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
(期 首)			円	%	%	%
2022年7月8日			21,910	—	94.6	△1.9
7月末			22,105	0.9	94.3	△2.8
8月末			22,287	1.7	94.3	△1.2
9月末			22,395	2.2	94.6	△3.2
10月末			22,596	3.1	94.8	△5.1
11月末			21,653	△1.2	94.3	△5.1
12月末			21,042	△4.0	—	—
(期 末)						
2023年1月10日			21,083	△3.8	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ3.8%の下落となりました。

基準価額等の推移



●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

債券利子収入を享受したこと等が基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

米連邦準備制度理事会（FRB）による積極的な金融引き締めにより米国の長期金利が上昇したことや、米ドルが対円で下落したこと等が基準価額の下落要因となりました。

●投資環境について

◎債券市況

- ・米国の長期金利は上昇しました。
- ・期間の初めから2022年7月末にかけては各国中銀による積極的な金融引き締め姿勢が景気減速につながるとの懸念などから金利は低下しましたが、その後はインフレ高止まりの状態が長引くとの見方から金利は上昇基調で推移しました。10月の米消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回り低下したことなどで、インフレのピークアウトが意識され一時金利が低下する局面もあったものの、日銀の金融緩和政策の修正や欧米主要中銀の積極的な利上げ姿勢などを受けて、期間を通じてみると、米国の長期金利は上昇しま

した。

◎為替市況

- ・米ドルは対円で下落しました。
- ・期間の初めから2022年7月末にかけて、米景気減速懸念を受けて利上げ観測が後退したことなどを背景に、日米金利差縮小を見込んだ円高・米ドル安が進行しましたが、その後、8月上旬から10月中旬にかけては、大幅な利上げを続けるFRBと、大規模な金融緩和政策を維持する日銀との間で金融政策の方向性の違いが意識され、円安・米ドル高が急速に進みました。10月以降はCPIの結果などを受けて、FRBの利上げペース減速観測から米ドルへの下落圧力が強まったことや、日銀による金融緩和政策の修正を受けて円が米ドルに対して買われる展開となり、期間を通じてみると、米ドルは対円で下落しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・ファンドのデュレーション（平均回収期間や金利感応度）については、抑制的からほぼ中立的な投資スタンスで臨み、市況に応じて機動的に対応しました。
- ・債券種別（セクター）配分については、市場対比で国債や住宅ローン債権を担保としたモーゲージ証券（RMBS）を消極的なスタンスとしました。また、市場対比で事業債はファンダメンタルズの面から魅力的な投資対象であり、緩和的な金融環境が継続する中、相対的に利回りが高い事業債には引き続き根強い需要があるとの考えから、積極的な投資スタンスとしました。

なお、2022年12月14日以降は、繰上償還に向けて組入資産の売却を行い、資金化をはかりました。

○今後の運用方針

繰上償還に向け、安定運用とする方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2022年7月9日～2023年1月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	円 1 (1)	% 0.004 (0.004)	(a)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	8 (7) (0)	0.034 (0.034) (0.000)	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	9	0.038	
期中の平均基準価額は、22,037円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年7月9日～2023年1月10日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ		千アメリカドル	千アメリカドル
		国債証券	—	4,009
		特殊債券	—	4,188 (246)
		社債券	58	3,850 (296)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)
(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。
(注) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外 国	債券先物取引	百万円 946	百万円 1,261	百万円 1,248	百万円 1,590

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月の月初から決算日までの分については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2022年7月9日～2023年1月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円 —	百万円 —	% —	百万円 1,813	百万円 1,420	% 78.3
為替直物取引						

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年1月10日現在)

2023年1月10日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2023年1月10日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	1,515,678	100.0
投資信託財産総額	1,515,678	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年1月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,515,678,722
コール・ローン等	1,515,678,722
(B) 負債	1,024
未払利息	1,024
(C) 純資産総額(A－B)	1,515,677,698
元本	718,924,726
次期繰越損益金	796,752,972
(D) 受益権総口数	718,924,726口
1万口当たり基準価額(C／D)	21,083円

<注記事項>

- ①期首元本額 856,323,624円
期中追加設定元本額 0円
期中一部解約元本額 137,398,898円
また、1口当たり純資産額は、期末21,083円です。

- ②期末における元本の内訳（当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額）
三菱UFJ 米国債券インカムオープン 718,924,726円

○損益の状況 (2022年7月9日～2023年1月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	28,692,791
受取利息	28,705,228
支払利息	△ 12,437
(B) 有価証券売買損益	△ 88,822,245
売買益	13,934,376
売買損	△ 102,756,621
(C) 先物取引等取引損益	2,195,980
取引益	40,489,131
取引損	△ 38,293,151
(D) 保管費用等	△ 599,497
(E) 当期損益金(A＋B＋C＋D)	△ 58,532,971
(F) 前期繰越損益金	1,019,887,045
(G) 解約差損益金	△ 164,601,102
(H) 計(E＋F＋G)	796,752,972
次期繰越損益金(H)	796,752,972

(注) (B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。